

新入社員への手紙

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある反面、

希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、

さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、

期待を込めたメッセージをいただきました。

きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。



- **文明の伝承者として** 2
東洋建設(株) 執行役員 馬淵 敏彦
- **「学び」、「先を読み」そして「果敢に挑戦」** 4
日鋪建設(株) 工事部長 浅見 幸夫
- **人との繋がりを大切に、小さな「心のふるさと」をたくさん作ろう** 6
鹿島建設(株) 東京土木支店 土木部 東京第2グループ 担当部長 上木 泰裕



文明の伝承者として



東洋建設(株) 執行役員

馬淵 敏彦

今春社会人となられ、土木の世界へデビューされた皆様へ一言お祝い申し上げます。

私がこの世界に入ったのが35年前、それからシールド等の下水道現場、中近東 LNG バース等港湾現場、また施工管理全般を経験してきましたが、この手紙を書く側になろうとは……。世代交代の速さ、歳月の過ぎ行く早さに驚くばかりです。

私が経験してきた現場で特に記憶に残っているのが、2回目のシールド工事現場です。今ではほとんど見られない半機械式圧気シールドで在来管へ地中接合する現場でしたが、接合寸前で作業員の人からスコップを譲り受け、自分の手で在来管を予定通り掘り当てた時の感触を今も思い出します。またこの現場は団地の一角から発進し、商店街の直下を掘り進む工事であった為、団地・商店の皆さんと話をしながら昼夜作業を進め、完成時に皆さんから作業所職員に対し慰労会を催していただきました。地域の人のためにお役に立てたという実感が湧いた現場であったと思われ出されます。

さて人類創造の歴史を紐解きますと、人がチンパンジーと分かれたのが今から数百万年前と言われていますが、何が原因で？ 何の行為が？ その分岐点になったのでしょうか。これは全く自説なのですが、毛むくじらの猿が水の冷たさを嫌がり、小川に石を放り投げ、出来上がった飛び石の上を濡れずに渡った。この今で言う橋を作った行為が人類への第一歩、即ちそのお猿さんが



新入社員への手紙

我々土木屋の遠いご先祖様なのではないかと勝手に推測しております(笑)。その後、人類は道具を操り、火をおこし、鉄やコンクリートを作り出し今日の社会文明を築いてきました。現代の我々土木技術者もその線上に居り、また文明の伝承者として後世の末裔にまで伝える使命を知らぬ間に背負っているのではないかと考えております。

しかし日本では近年の公共事業が減り続けるのに伴い土木技術者の数も、またこの業界へ入ってくる若者も減っているのが現状です。この理由に社会における建設業界の位置の低さ、また業界の将来性に対する不安等が挙げられるかと思われませんが、この状況はすでに変化してきているのではないのでしょうか。その変化を起こしたのは今年の東日本大震災です。震災を機に日本の国民は多くの事を再度認識できたのではないかと思います。皆さんも見られたであろう津波の猛威を始めとする改めて知る自然の力、被災された人々を救おうとする人の勇気・優しさ、また復旧復興の方向性を示す政治の重要性等々ですが、それに加え道路・鉄道・港・電気・上下水など社会資本がいかに人々の暮らしに重要なものであるのか、また防災というキーワードを付けた新しい街造り・強い国造りが今後の日本に不可欠であることを再認識できたのではないのでしょうか。

ここ数年、我々の向かう先が見えにくくなっていたように感じられましたが、今我々の向かう方向は前述したように明確になっており、社会からの要請に答える必要があります。新入社員の皆様、新しい社会・国造りを目指し一緒にがんばりましょう。我々は君たちを次の伝承者として迎え入れます。



「学び」、「先を読み」そして「果敢に挑戦」



日鋪建設(株) 工事部長

浅見 幸夫

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。昨年は、東日本を襲った未曾有の大震災や集中豪雨による河川の氾濫があり、社会資本整備の在り方があらためて問われる年となりました。皆さんは本格的な復興と土木の再考に携わる社会人としてスタートするわけですが、社会に貢献する「責任」と「誇り」を持てる土木技術者となることを願って三つのアドバイスをさせていただきます。

一つ目は「土木は現場から学ぶ経験工学」ということです。学校で得た知識だけでは現場運営はうまくいきません。現場では気象条件や自然地形、人間関係等さまざまな問題にぶつかるはずです。解決にむけ資料の収集はもちろんのことですが、その時は遠慮せずに先輩や職人さんに教えるを仰いでください。そして教えられたことは素直に受け止めて「まね」をすることから始めてください。結果を自分の持つ知識と照らし合わせてその経験を自分のものにするのです。経験豊かな先輩や巧者の先人の教えは自分を磨く宝の山です。自分では考えの及ばないことがたくさんあります。一つの現場での経験をこれからの現場に活かせるようしっかりと「学び」ってください。

二つ目は「土木は全体工程表に基づき時間を管理する仕事」です。土木工事の工期は長く、やるべき事はたくさんありますのであらかじめ作業の優先順位と期間を決めて工事を進めます。順番を間違えたり期間に誤算があると取り返しのつかないことになります。皆さんも現場に入ると仕事の流れに追いつかず時間に追われることが多くあると思いますが、時間は止められません。期



新入社員への手紙

間内に作業を終了させるためには仕事の流れの「先を読み」先手を打つことが解決策です。そのためには毎日工事の記録をつけて進捗量（歩掛り）を把握して仕事の流れを読み取る自分のデータを持つことが必要です。このことは自分の時間を作るためにも重要なことです。

三つ目は「現場は刻々と変化する生き物」のようです。状況に応じて工法や工程の変更はつきものです。現場技術者はそのたびに適切な判断をしていかなければなりません。すべてが同じ現場というのではありません。豪雨にさらされることもあるでしょう。難局に直面することもあるでしょう。その時は学びとった経験を活かし先を読む洞察力で「果敢に挑戦」していくのです。汗をかき使命感に追われ「責任」を持って竣工させた現場は最高の喜びを与えてくれるはずです。そして、その達成感が明日の自身を磨いてくれるのです。

昨年の災害では土木工事につきものの水の力をあらためて思い知らされました。最後になりますが、自然と対話しながら工事を遂行していく土木技術者になる皆さんに「水五則」という古典を贈りたいと思います。これからの人生に少しでもお役にたてれば幸甚です。

- 一、自ら活動して他を動かしむるは水なり。
- 一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり。
- 一、障碍に遭い激してその勢力を百倍するは水なり。
- 一、自ら潔うして他の汚濁を洗い 然も清濁併せ容るるは水なり。
- 一、洋々として大海を充たし発しては蒸気となり雲と変じ雨となり雪と変じ霧と化し凝っては玲瓏たる鏡となり而もその性を失わざるは水なり。



人との繋がりを大切にし、 小さな「心のふるさと」を たくさん作ろう



鹿島建設(株) 東京土木支店 土木部 東京第2グループ 担当部長

上木 泰裕

新社会人の皆さん、入社おめでとうございます。皆さんを心待ちにしていました。

昨年の3月11日、三陸沖を震源とするM9.0の巨大地震が発生し、皆さんのご家族やご親族、友人で地震、津波あるいは福島原発の災害に遭われた方もいらっしゃると思います。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

長年積み重ねてきた土木技術をもってしても、この未曾有の大災害を防ぐことができなかったことは、建設業界の歴史に自然から大きな提言がなされたことに他なりません。このような時に、皆さんがこの業界へ入り共に働く仲間となったことは、大変嬉しく頼もしい限りです。

さて、私はこの業界に入り今年で25年目になります。そのうち21年間は、現場の施工管理に携わりました。現場では、いくら高い技術力を持ってしても、苦情、事故及び災害などのトラブルを防ぐことは容易ではありません。その現場で初めて知り合った仲間とコミュニケーションを取りながら、近隣住民の方からご意見をいただき、皆で考え努力しています。そうした一人ひとりの支えがあって工事は無事に完了するのです。

ある時、立坑を造るために、路上で路面覆工を行っている現場でこんな出来事がありました。夜間作業のため、道路に作業帯を設置していた時のことです。工事車両を誘導していたガードマンが、近隣の初老のご婦人からお寿司を頂いたことがありました。実は、後から聞いたお話なのです



新入社員への手紙

が、そのご婦人のご主人は既に他界されており、生前ガードマンをされていたそうです。夜勤も多く、寒い冬も暑い夏でも元気に出勤されていました。ご主人は、現場でのことは何一つ話されなかったのですが、ご婦人は仕事のことなど聞こうとも思わなかったそうです。ところが、ある夜、自宅前の我々の工事現場で一生懸命に働くガードマンを見て、「主人も住民から苦情を言われながらこんな大変な作業を何十年間も私達家族のために……。」と思い涙が止まらなくなったそうです。そこでご主人が好きだったお寿司を二つ買ってきて、一つはご仏壇にお供えし、そしてもう一つを我々のガードマンに食べてもらいたいとおっしゃったのでした。

私は、我々のガードマンを誇りに思うとともに、このご主人のような方々に支えられながら一つの工事を完成することが出来るのだとつくづく思いました。

仕事をしていく上で大切なのは、人との繋がりを大事にすることです。

先日、以前いた現場のパトロールに行きました。近隣の方に騒音や振動でとても迷惑をかけた現場でした。その工事も間もなく竣工です。その現場のパトロール中に近隣の方から「上木さんお久しぶりです。お元気ですか。」と声をかけられたのです。当時苦情を言われていた近隣の方から温かい声をかけていただけるとは想像もしませんでした。その時は、苦情に対して真摯に対応したからこそのことだなあと嬉しく思い、パトロールも忘れてその方と思い出話に花を咲かせました。

このように、今では都内の至る所にお世話になった方々がいらっしゃいます。昔の現場近くを訪れる度に、あのころのことを思い出します。現場で働いていた場所の一つひとつが小さな「心のふるさと」のように思えるのです。

皆さんは、これから新しい職場で第一歩を踏み出し、いろいろな場所で働かれることでしょう。その土地土地で人と知りあい、感動し、喜びを分かち合えるはずです。苦労したことも、後には良い思い出となります。どうか、小さな「心のふるさと」を増やし、大きなものにしてもらいたいと思います。

さあこれからです。まずは、肩の力を抜き素直になって、会社や社会に打ち解けることから始めましょう。皆さんが、「希望」と「誇り」を持って日々働き、大きく成長してこの業界を支えていかれることを期待しています。